

第51回夏季大学

新世代の衛星が切り開く新しい気象の世界

日時:2017年7月29日(土)-30日(日)

場所:気象庁講堂(東京都千代田区大手町1-3-4)

定員:100名程度(先着)

参加費用:一般5000円 学生3000円

WEB (<http://www.metsoc.jp/?p=1629>) からお申し込みください。

静止気象衛星「ひまわり8号」は最先端の観測技術を有する放射計(AHI)を搭載し、米国や欧州などの他の次世代静止気象衛星に先駆けて2015年7月7日より運用を開始し、国際的にも注目されています。また、国内外では各国で極軌道衛星の開発も進められており、最先端の科学的知見が蓄積されつつあります。このような背景から、今回の夏季大学では、近年の衛星観測より明らかとなってきた最先端の科学的知見を基にした幅広い内容について、専門家の皆様から講義を行っていただく企画と致しました。

■ 7月29日(土)

- 10:00~11:00 ひまわりの歴史、8号・9号の概要、他の静止衛星との比較
野中健一(気象庁気象衛星センター)
- 11:00~12:00 ひまわり8号衛星データの予報現業での利用
永山隆治(気象庁)
- 13:30~14:30 ひまわり8号データの台風解析での利用
西村修司(気象庁)
- 14:30~15:30 衛星観測による黄砂や大気エアロゾルの監視と予測への活用
田中泰宙(気象庁気象研究所)

■ 7月30日(日)

- 10:00~11:00 衛星からの雪氷観測(Terra/Aqua, GCOM-W, GCOM-C等)
堀雅裕(宇宙航空研究開発機構)
- 11:00~12:00 衛星からの降水観測(GPM, GSMaP, GCOM-W)
久保田拓志(宇宙航空研究開発機構)
- 13:30~14:30 温室効果ガス等の観測(GOSAT)
横田達也(東洋大学/国立環境研究所)
- 14:30~15:30 衛星がとらえた美しい映像の数々

主催:(公社)日本気象学会 教育と普及委員会